

## 日本政府による対キルギス無償資金協力の署名交換・文書披露

6月13日（金）、キルギス共和国の首都ビシュケクにおいて、合田秀樹駐キルギス共和国日本国特命全権大使と、アルマズ・バケタエフ・キルギス共和国財務大臣（H.E. Mr. Almaz BAKETAEV, Minister of Finance of the Kyrgyz Republic）との間で、キルギスに対する無償資金協力（「人材育成奨学計画（JDS）」）に関する書簡の署名・交換が行われました。また同日、西方康太郎 JICA キルギス事務所所長と同大臣との間でも、同案件に関する書簡の署名・交換が行われました。

今般署名・交換された「人材育成奨学計画（JDS）」は、総額3億9,900万円（供与限度額）で実施されます。JDSは、人材育成及び日本国とキルギスの二国間関係発展に資する無償資金協力として、2007年より実施されています。JDSでは、近年、各年度最大20名の若手行政官が選抜され、19名が修士号、1名が博士号取得のため日本に留学しています。2024年までに307名の公務員が日本に留学し、更に20名が本年夏に日本での留学を開始します。JDS卒業生は、キルギスの多くの省庁で要職に就いており、その中には、3人の大臣、多くの副大臣、国会議員を含んでいます。今般署名・交換された書簡に基づき、2026年夏に20名の公務員が日本での留学に派遣される予定です。

キルギスでは行政改革を含む様々な取組が進められており、こうした取組を円滑かつ確実に実施していくためには、制度の構築・改善を想う行政官等の行政能力の更なる向上及び人材育成が急務になっています。

この協力は、キルギス政府の中枢において政策決定に携わることが期待される若手行政官等を対象とする留学生が、本邦大学院において同国における優先開発課題分野での知識の修得を目的として留学するための必要経費を支援するものです。帰国後は、JDS生がキルギスの社会・経済課題の解決のために、日本で修得した知識・スキルを活用するとともに、キルギスの発展及び住民の福祉に貢献するよう期待します。

